

授業科目(ナンバリング)	宿泊業論 (CB202) (実践的教育科目)			担当教員	井上英也 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	コース必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
観光立国を目指す我が国の基本方針において、宿泊業は、旅行業、運輸業と共に将来の基幹産業として位置づけられる。本講座は、その宿泊業(主にホテル業)をその発展史から先端の事例まで、多方面から総合的に理解することをねらいとする。							②④⑤ ⑥⑦
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	宿泊業の発展の歴史を振り返ることにより現在に至る過程を理解し、 現在も多様化し続ける宿泊業界の構造、特性、更には今後の進化を展 望することができる。				随時試験 授業貢献	30% 20%	
情報収集、 分析力	常に宿泊業に関心を持ち、新聞、雑誌、その他メディアにある関連記 事・ニュースについて理解し、議論することができる。				レポート	20%	
コミュニケーション力	積極的に授業に参加し、課題を掘り下げて考える習慣を持ち、自分の 考えをクラスメートと共有することができる。				授業貢献	10%	
協働・課題解決 力	授業中に適宜実施されるグループワークにおいて、グループにおける 自分の役割を認識し、課題解決に向けた貢献をすることができる。				授業貢献	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業貢献 : 50% 課題への取り組み、質問、発言などの回数、グループワークなどを評価。 随時試験 : 30% 論述式で、主として宿泊業の産業特性に対する理解度を問う。 レポート : 20% 論旨・形式要件をもとに評価。採点后、全体の講評を行う。 尚、テスト、課題・レポートなどへのフィードバックは、授業中あるいはポートフォリオにおいて個別におこなう。</p>							
授業の概要							
<p>担当教員のホテル運営に関する経験・知見による実践的な授業である。第1段階: 宿泊業発展史を学ぶ / 第2段階: 宿泊業の多様な形態を理解する / 第3段階: 世界の宿泊業の現状を理解する / 第4段階: 日本が観光立国になるための宿泊業の在り方を考察する / 第5段階: 情報システムの進化と宿泊業の未来について考察する。また、授業中に適宜課題が示され、グループワークにより理解を深める。授業の理解度は、イマキクにより確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書 : 特に指定しない。 参考書 : 授業の中で適時指示する。 指定図書: 「星野リゾートの教科書」中沢康彦(著)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>1. 本講座を履修する学生は、「ホテルオペレーション」の履修が望ましい。2. 将来ホテル業界で幹部として活躍したいと考えている学生は、「ホテル経営管理者養成課程」の履修を奨める。3. 宿泊業に関する日々のニュース、図書館にあるホテル産業に関する定期刊行物などを通じて、最新の話題について理解する努力をする。</p>							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	講義内容、講義の進め方、試験方法などを説明する。	シラバスを読んでおく。
2	宿泊業の概要	我が国における宿泊業の実態 さまざまなホテルの業態	ホテルと旅館の違いを調べ、列記しておく。
3	近代ホテル産業の発達史	ヨーロッパ:セザール・リッツとエスコフィエが幕を開いた近代ホテルの歴史。	ヨーロッパにあるホテルを1つ選択し、施設概要を調べておく。
4		アメリカ:スタットラー、ヒルトンによる巨大ホテルチェーンの発達史を学ぶ。	スタットラーの革新性はどこにあったかを調べる。
5		日本:120年にわたる帝国ホテルの歴史を通じて、我が国の近代ホテルの発達史を理解する。	現在の帝国ホテルの営業方針を調べ、書き出してみる。
6	グローバル・ホテルチェーンのビジネスモデル	ホテルチェーン会社の基本的な仕組みを学ぶ。	IHG(インターコンチネンタルホテルグループ)のホテルブランド名と特徴を調べる。
7		マネジメント契約・フランチャイズ契約の基本的な仕組みを学ぶ。	フランチャイズ方式で事業展開している業態を5つ考えておく。
8		世界の巨大ホテルチェーン各社の特徴を学ぶ。	ヒルトンの持つホテルブランド名とその特徴を調べて列記する。
9	ビジネスホテルチェーン	多様化し進化するビジネスホテルの仕組みと経営戦略を学ぶ。	「アップパービジネスホテル」の意味を調べておく。
10	ホテル業の基本的な事業構造	労働集約型サービス産業、不動産業、製造業など、ホテル業の多面的な特性を学ぶ。	ホテルの「不動産業」的側面とはなにか列記してみる。
11		ホテルの収支構造について学ぶ。	「ユニフォームシステム」の意味をネットで調べておく。
12		ホテル組織の各部門がお互いに緊密に連携することによって、初めてお客様は満足していただけるということを学ぶ。	チェックインしたお客様が1泊して朝食後にチェックアウトした場合、接するスタッフの種類を考えておく。
13	訪日外国人観光ビジネスの動向と課題	国家目標として拡大する訪日旅行者市場の現状を理解する。	観光庁および日本政府観光局(JNTO)のウェブサイトから現状を把握しておく。
14	IT活用による進化の今後	日々進化するOTA(オンライン・トラベル・エージェント)の仕組みを理解し、宿泊業の未来を考察する。	楽天、じゃらん、一休などの宿泊予約サイトとホテル独自のオンライン予約サイトを比較しておく。
15	総括	これまでの授業内容を振り返る。	授業のさらなる改善のためのアイデアを考えておく。
16	定期試験	記述式筆記試験。	試験の準備をする。